

ススキ

学名： *Miscanthus sinensis* Andersson 科名：イネ科



ススキは日本各地や台湾、朝鮮半島、中国などの温帯に分布し、草原や丘陵に群生する高さは1〜2mのイネ科の多年草です。種子からの成長速度が遅く、5年以上かかります。8〜10月になると茎の先端から短い柄を出して、黄褐色の穂をつけて垂れ下がりが、秋風になびきます。

ススキの根茎を乾燥させて刻み、利尿、解毒、風邪、高血圧などに用いていましたが、今ではほとんど使われていません。ススキは秋を象徴する植物として日本文化の中で重要な植物です。十夜夜の飾りとして縁側にお団子と一緒に供えてお月見をしたり、茅葺屋根や家畜の飼料などとして使われています。枯れたススキを茅葺屋根に用いる理由をご存じでしょうか。緑の状態では葉や茎にタンパク質などの栄養分が含まれているため、菌類などによって腐ってしまうからです。秋の七草の一つとしても有名なススキですが、雑草と共に駆除の対象にされることもあります。

ススキは、「すくすくと立つ木」という意味から転訛して名付けられました。古くから尾花（オバナ）の名でも親しまれていました。

生薬名	芒茎（ポウケイ）、芒根（ポウコン）
薬用部位	茎、根
薬効	利尿、解熱、解毒作用
用途	むくみや解熱鎮痛消炎剤として用いられた。



コノテガシワ

学名： *Thuja orientalis* L. 科名：ヒノキ科



コノテガシワは庭の植木として植えられていることが多く、世界各地で栽培されています。寒さや暑さに強いいため、育てやすい植物です。子どもが手のひらを立てているように見えるため「児手柏」と名付けられました。

高さ10〜20m、直径1.5〜3mにもなる常緑の高木です。葉はヒノキに似ていて、葉の表と裏が全く区別出来ないような独特な形となっています。1年目の葉は緑色ですが、翌年は褐色になり、3年目に落葉します。枝はヒノキとは異なり、直立しているのが特徴的です。また、雌花（めばな）と雄花（おばな）の両方を同一の個体が有し、春先に花を咲かせます。10月には小さな卵円形で角のある球形の実がなるので、観察してみたいかがでしょうか。

葉を日陰で乾燥させた側柏

葉（ソクハクヨウ）は、辛味や苦味を感じられ、吐血などに用いられました。さらに側柏葉を粉末にし、ゴマ油で練ってから毛の生え際に塗ると、毛生え薬にもなります。生薬の柏子仁（ハクシニン）は種子を用いており、滋養強壮作用があります。

コノテガシワの雄花



生薬名 側柏葉（ソクハクヨウ）、柏子仁（ハクシニン）

薬用部位 葉、種子

薬効 止血、止瀉、滋養強壮、鎮静作用

用途 葉は吐血や血尿などの失血症、
種子は滋養強壮や消炎に用いられた。